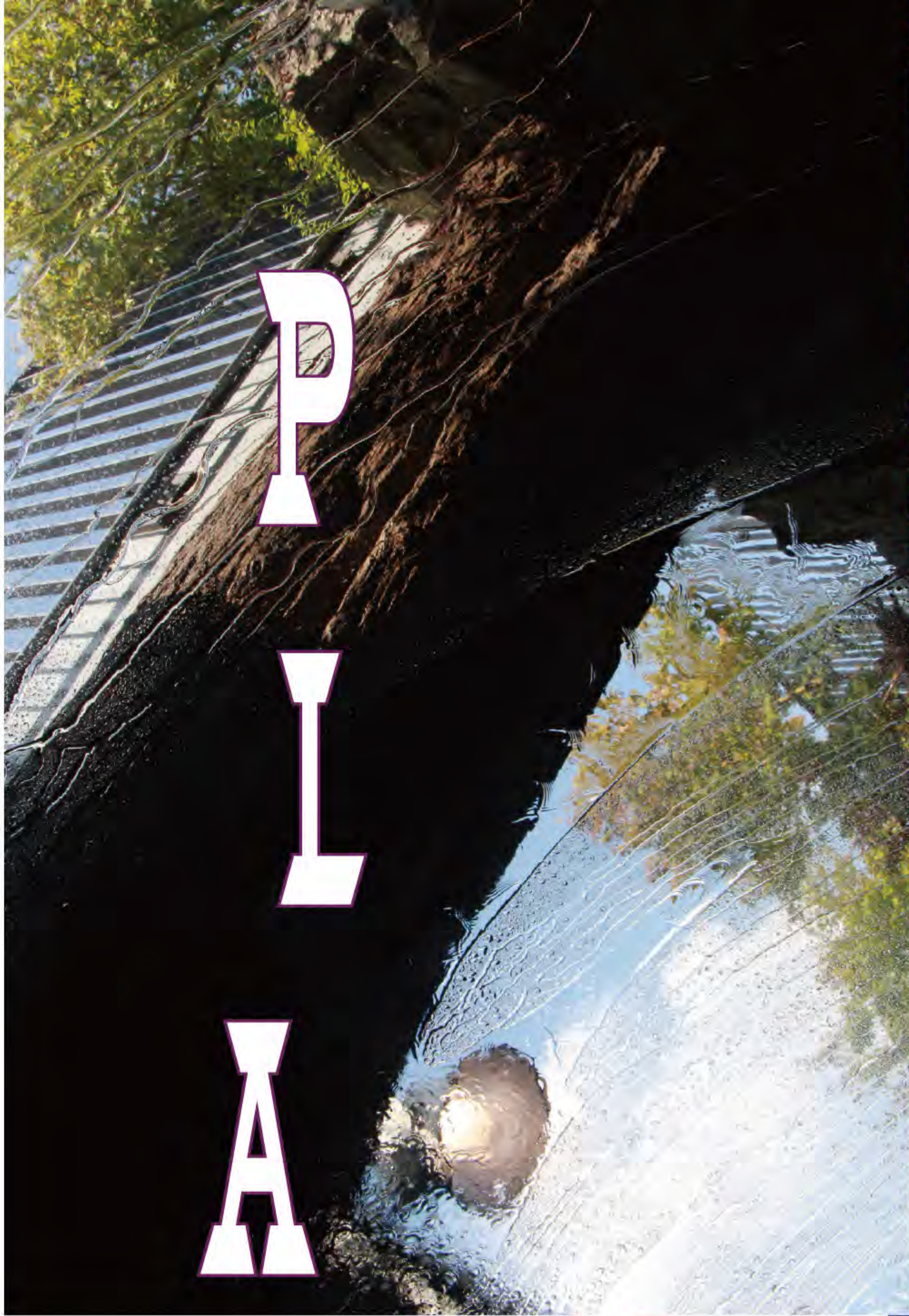


荒木優光

「池は聞いている (ため池サウンドコレクションより)」 パフォーマンス/コンサート



P
I
A

vol.04

2018年2月24日(土)

時間：14:30 開場 15:00 開始
会場：2階ミュージアムホール
入場無料

関連作品展示

2月20日(火) - 24日(土)
10時 - 18時
2階造形スタジオ
入場無料

出演：

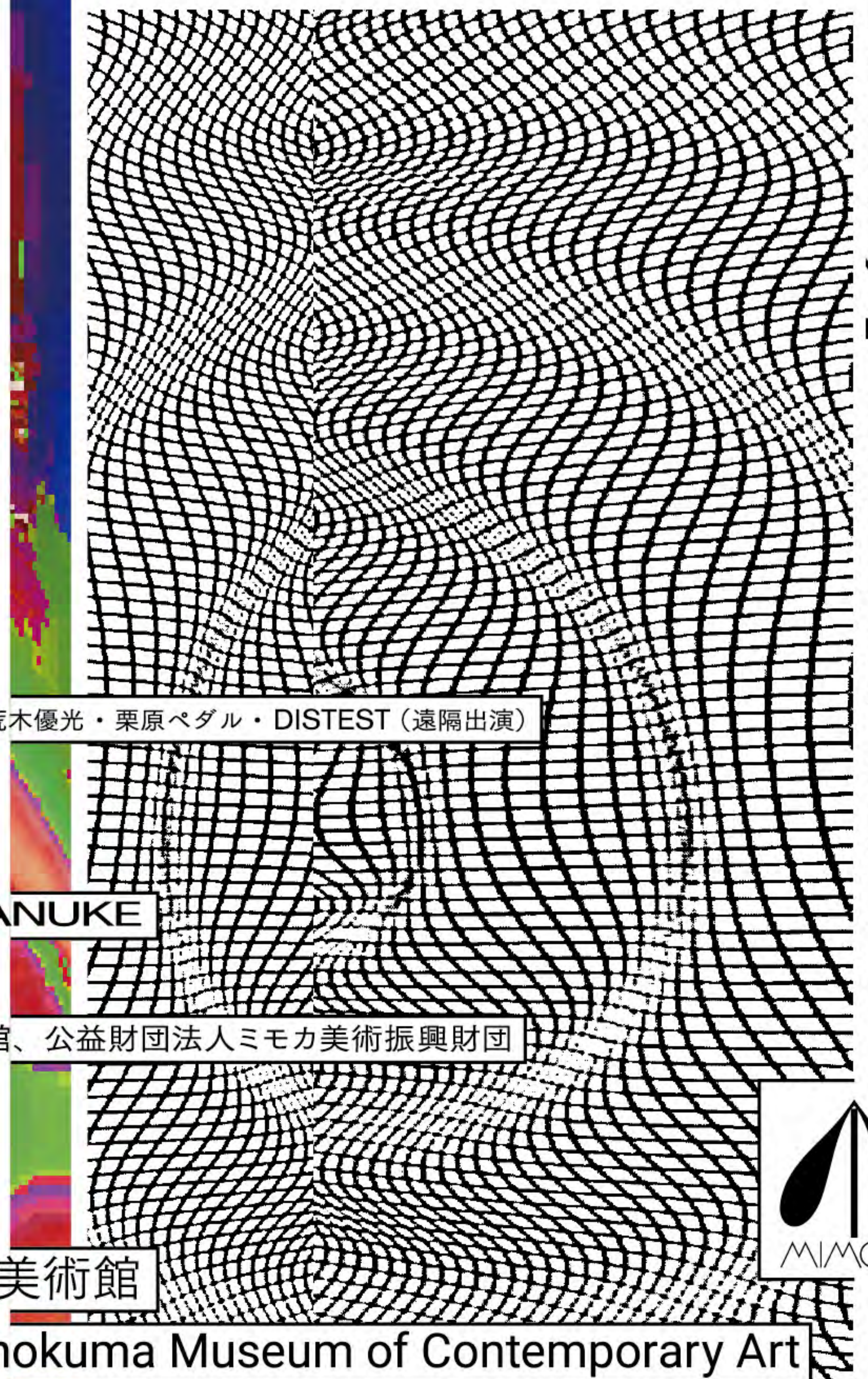
NEW MANUKE：荒木優光・栗原ペダル・DISTEST (遠隔出演)
他

音楽：

荒木優光、NEW MANUKE

主催

丸亀市猪熊弦一郎現代美術館、公益財団法人ミモカ美術振興財団



丸亀市猪熊弦一郎現代美術館

Marugame Genichiro-Inokuma Museum of Contemporary Art



音響作家の荒木優光は、音を基軸に作品を制作し多様な活動を展開しています。自身が出演するパフォーマンスや、映像と組み合わせたインスタレーションでは音を「聞く場」を創出する一方、ディレクターを務める ARCHIVES PAY(アーカイブスペイ)では、「記録・収集」といった観点から音のアーカイブを活用・作品化しています。また、サンプリングやコラージュを中心としたバンド NEW MANUKE(ニューマヌケ)のメンバーとしてライブ活動も行い、そのどれもが、聴覚の体験を出発点としたユニークな手法が試みられています。

今回上演される「池は聞いている(ため池サウンドコレクションより)」は、荒木が丸亀に密集する「ため池」をモチーフに制作する新作パフォーマンス/コンサートです。音を巡る「聴取」、「記録」、「演奏」への実験的なアプローチをご覧くださいとともに、関連展示や終演後のアフタートークもどうぞお見逃しなく。



PLAY vol.04

荒木優光

「池は聞いている(ため池サウンドコレクションより)」

日時：2018年2月24日(土) 14:30 開場 15:00 開演

*アフタートーク 荒木優光 × 塚原悠也 from contact Gonzo

場所：2階ミュージアムホール

料金：無料

構成・サウンドデザイン：荒木優光

出演：NEW MANUKE：荒木優光・栗原ペダル・DISTEST(遠隔出演)、他

音楽：荒木優光、NEW MANUKE

テクニカル：遠藤幹大

主催：丸亀市猪熊弦一郎現代美術館、公益財団法人ミモカ美術振興財団

関連作品展示

パフォーマンスの上演に先立ち、2月20日(火)より荒木優光の作品を展示します。

日時：2018年2月20日(火)―24日(土) 10:00-18:00

場所：2階造形スタジオ

料金：無料

丸亀市猪熊弦一郎現代美術館/公益財団法人ミモカ美術振興財団

〒763-0022 香川県丸亀市浜町80-1(JR丸亀駅前)

TEL 0877-24-7755

URL <http://mimoca.org>

アクセス/JR丸亀駅、南口より徒歩1分

【鉄道(JR)】

岡山駅-[松山または高知方面行特急で40分]-丸亀駅

高松駅-[予讃線快速で約30分]-丸亀駅

【飛行機】

高松空港-[タクシー約40分/乗合タクシー約50分*1/リムジンバス約75分*2]-丸亀

*1高松空港シャトル便(1名片道1,700円/搭乗前日正午までの予約制/東讃交通0877-22-1112)

*2空港リムジンバス(1名片道1,200円/琴讃バス株式会社 <http://www.kotosan.co.jp>)

【高速バス】

東京・横浜・名古屋・大阪・神戸・福岡より直通運行

【車】

本州方面から

[瀬戸大橋経由]瀬戸中央自動車道 坂出北ICより約15分

[神戸淡路鳴門道経由]高松自動車道 坂出ICより約15分

四国内の高速道路から

高松自動車道 坂出IC・善通寺ICより約15分

*JR丸亀駅前地下駐車場・2時間無料(当館1階受付で駐車券をご提示ください)

荒木優光(あらかき・まさみつ)

1981年 山形県生まれ

2004年 京都造形芸術大学映像・舞台芸術学科卒業

現在、京都市在住

サウンドドキュメンタリーやフィールドレコーディングの手法を用い、音声を主体として身の回りにある事物と組み合わせた聴取空間を構築している。他にも、記録にまつわる作業集団 ARCHIVES PAY(アーカイブスペイ)のディレクターであり、映像・パフォーマンス作品におけるサウンドデザインなども行う。実験的ジャンクバンド NEW MANUKEのメンバーである。

<http://masamitsu-araki.tumblr.com/>

PLAY

2014年から始まったパフォーマンスを紹介するシリーズ<PLAY>。表現が多様化する現代美術において、従来の展示方法では扱うことが難しいパフォーマンス作品を紹介することを目的としています。実験的な上演や制作を試みることによって、作家にとっては自身の表現を、美術館においては展示のあり方を、観客のみなさんにはこれまでの経験を更新する機会となることを目指しています。

PLAY
vol.04

